

自治 温故創新
考える
思いやる
やりぬく

まごころ

学校便り 3月号
令和6年3月25日
西東京市立田無第三中学校

今日まで、そして明日から！

校長 東山 信彦

本日で、令和5年度が終了します。今年度も「温かく活気あふれる田無第三中学校」の実現に向けて教職員一丸となり取り組んでまいりました。また、各学年の生徒達もそれぞれによく学校生活に取り組み、教職員とともに、さまざまなことを乗り越え、押し返し、そして前に進み続けてきました。殊に、三年生は、3月19日卒業式のその日まで、最上級生の矜持をさまざまな場面で示し、三中生の良きモデルとなりました。きっと、後輩たちがその背中を追い、そして追い越して、更なる素晴らしい三中を創っていくことでしょう。今日までそして明日から、三中の歩みはまだまだ続きます。未来の三中が楽しみです。

式 辞



南と北の風がせめぎ合う中に、さらに東の風が加わり、春色豊かになるこの季節に、日頃から本校に、ご理解、ご援助を賜っております、西東京市教育委員会 教育委員 後藤 彰様をはじめ、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業式をこのように盛大に挙行できますことを、厚く御礼申し上げます。

三年生の皆さん、卒業おめでとう。三年前、皆さんとほぼ時を同じくして、田無第三中学校の一員となった私にとって、皆さんは久しぶりに、学校での三年間を一緒に過ごした生徒たちとなりました。

成長した皆さんとこうして巣立ちの時を、喜びをもって迎えられることを大変嬉しく思います。

さて、私は、その三年間の中で、「三中生としてかくあるべし」という自分の思いを、短い言葉でしめしてきました。

まず、入学式で、「温かく・活気ある学校」を目指しますと宣言しました。また、そのための目標として、「自治」「考える」「思いやる」「やり抜く」という言葉を示しました。

「自治」。自分で自分をコントロールする。自分たちで自分たちを治めること。簡単なことではありません。しかし、皆さんは、粘り強く、そのことに挑戦し、自分の、そして集団の力を高めてきました。

特にここで取り上げたいのは、「みんなでよい学校を作ろうとする」皆さんのその前向きな雰囲気です。大運動会、合唱コンクールは言うまでもなく、授業などの普段の学校生活でも、「皆で一生懸命に取り組む姿」をずっと見続けてきました。そして、卒業式を目前に控えたこの時期にあってもなお、楽しそうにさまざまな活動に取り組む、いつもと変わらぬみなさんを見ることができました。

人は前向きな環境の中で大きく伸びていきます。一人一人いろいろな個性があるなかで、お互いを認め合い、折り合いをつけて、怒らず、かといって流されず、みんなが集い、みんなで前に進むことができるその一体感こそ、皆さん三年生が培ってきた、集団の力の源泉です。

「集会には集団の力が現れる」、この言葉も折に触れ言い続けてきました。この卒業式の「姿」を前に、その言葉の改めでの説明は不要でしょう。

入学式の時、あのようになかった皆さんが、以来三年、今や「温かく活気ある」から「温かく活気あふれる」とバージョンアップを果たし、このような、押しも押されぬ田無第三中学校の最上級生として、堂々と巣立ちの時を迎えられること、大変に誇らしく思います。

「あ・じ・み」「挨拶・時間・身だしなみ」についてもお話ししました。本校を訪れるお客様は、「生徒からの気持ちのいい挨拶」をまず口にされます。そして、授業時間中の静けさもです。「今日は生徒はお休みですか」とさえ聞かれました。また、「古いけれど清潔感のある学校ですね」ともいっていただきました。「人との出会いは、まずあじみ」新しい場所でも、三中伝統の挨拶から、素晴らしい出会いを重ねてください。

伝統と言えば、昨年度の開校60周年に際して、「温故創新」という言葉もよく使いました。

三中の伝統をしっかりと受け継ぐとともに、「新時代に向けて、新しい伝統・文化を作り出してほしい」という思いで「温故知新」を、「創る」という文字に替え、「温故創新」「古きをたずねて新しきを創る」とし、三中生活のキーワードの一つとして、新たに示しました。三中伝統の挨拶も、皆さんのおかげで「相手にとって気持ちのいい挨拶を、自ら交わす」ことが普通になりつつあります。また、皆さんがけん引した生徒会活動の流れも受け継がれ、着々と新しい伝統を生み出しつつあります。

このように、すばらしい実績を残されてきた皆さんですが、この言葉を再び皆さんに示します。「過去の出来事は、今ある自分の解説にはなるが、解決にはならない。解決は、今から始まる未来にある」

過去の栄光であれ、過去の失敗であれ、そこにこだわるべきではありません。田無第三中の最高学年にふさわしい皆さんではありますが、まだまだ未熟であるのも事実です。それぞれに課題があります。しかし、逆にいえば、伸びしろもたくさんあるということです。常に課題解決の場は今から始まる未来にあるし、それに挑んでこそ自分をバージョンアップさせていくことができます。

ただ、新しいステージに進む皆さんにとって、この先どうなってしまうのか見通せず、不安を抱えるのも当然です。そのためにはどんな準備をすればいいのだろうか、私たちは、つい未来を色々予想して対応を考えがちです。そして、不安は解消されるどころか、いや増していくことになりがちです。

そこで、最後の言葉です。

皆さんは、中学に入学して、一人一台ずつ学習用タブレットを与えられ、学ぶことになりました。私が中学生だった半世紀前、そんな未来を誰が予想できたでしょうか。いや、実は一人いたのです。そんな未来はその一人から始まったといっても過言ではありません。その人の名は「アラン・ケイ」。1972年に、論文「すべての年齢の子どもたちのための、パーソナルコンピューター」で、持ち運びできる個人用コンピューターという考え方を発表し、別名「パーソナルコンピューターの父」と呼ばれています。皆さんが持っているタブレットをさかのぼっていけば、必ずこの人物に行き当たります。ただ、アランケイはこうも言っています「the best way to predict the future is to invent it」（未来を予想する最善の方法は、それを発明することだ）。彼は、コンピューターの未来を予想して開発を進めたのではなく、「こういうものがあつたらいいな」と考えて、粘り強く開発運動を進めたと言っています。つまり「未来を予想する方法」は「未来を発明する」ことであり、「未来を発明する」とは「未来はどうなるのか」ではなく「未来をどうしたいか」ということなのです。

「未来」を「課題」に置き換えましょう。「課題はどうなるのか」ではなく「課題をどうしたいか」です。未来を「自分」に置き換えましょう。「自分はどうなるのか」ではなく「自分をどうしたいか」です。

アランケイのように、粘り強く、未来の「なりたい自分」に向けて、自分を磨き続けていきましょう。

終わりとなりましたが、保護者の皆さま、お子様の卒業、誠におめでとうございませう。今日の日まで、お子様を励ましながら成長を温かく見守ってこられたご労苦に、改めて敬意を表しますとともに、三カ年にわたって、本校の教育活動へのご協力をお寄せいただきましたことに、こころより感謝申し上げます。保護者の皆さまと共に、卒業生の限りない前途を祝し、式辞といたします。

令和6年3月19日

西東京市立田無第三中学校長 東山 信彦

文化発表会を終えて

文化発表会実行委員長 今泉 古乃美

3月8日、本校にて文化発表会が行われました。前日の保護者向けプレ公開と、当日の舞台発表では、たくさんの保護者の方にご来場いただきありがとうございました。

学年末考査が終わってからの短い期間で、それぞれの生徒が展示作品や舞台発表の総仕上げをし、授業で作ったものをよりよくしようと工夫を凝らしていた姿から、準備も含めて活気のある文化発表会であったと言えると思います。

また、実行委員や教科系の生徒達は本当によく動いてくれました。舞台のリハーサルや前日の展示準備で、昨年度よりも円滑に準備ができたのは、生徒たちが、主体的に行動し、自分から友人たちとコミュニケーションをとったり、何をすればいいか教員に聞いたりしながら、自ら考えて行動できたからではないでしょうか。さらに、生徒たちも、鑑賞中にしおりにメモを取っており、文化発表会とおして楽しみながら学ぶ姿が見られました。昨年度よりも鑑賞態度が良くなっていたと伝えてくださった先生方もいらっしゃいました。

舞台発表では、昨年度よりもたくさんの生徒が発表し、どの生徒も輝いていました。昨年度経験している2・3年生は、一年前の自分たちを懐かしみながら、後輩の堂々と発表する姿を見て、感動していました。1年生は、とてもよくリアクションをしてくれました。発表する生徒も、興味津々で発表を聞く最前の1年生の姿を見て、発表しやすかったのではないのでしょうか。最後は吹奏楽部による素晴らしい演奏がありました。すでに引退している3年生も加わり、重厚感のある演奏でした。途中、生徒が手拍子をはじめ、体全体で音楽を楽しんでいる姿がみられました。

展示見学では、各教科・各学年の授業の様子を、作品を通して全校生徒や教員が知ることのできる機会となりました。昨年度よりも、作品の細かいところに注目して鑑賞していて、生徒たちの感想にも「同じ教材でも、個性豊かだった」「友達や先輩の作品を見るのが楽しかった」などの言葉が多くあり、実行委員長として、文化発表会を成功させることができた実感しました。

来年度以降も、さらに飛躍した文化発表会を開催できるようにしたいと思います。ありがとうございました。